

第4回 理事会 (2012年5月27日 ミオス) 発言集

定期大会の準備のための第4回理事会が開催されました。参加者は30人でした。以下に、発言内容の概略を報告します。会員の皆さんの参考にして下さい (文責：木村)

大会議案の討議

○東海第二原発の再稼働を許さないことが重要だ。原発は全国的に停止している。しかし、横須賀港には福島型原発が2基、ほかに原子力潜水艦搭載の原発があり全部で3基の原発がある。これらを港の外に退去させなくてはならない。日本平和委員会では外務省に対する要請行動をしているが、外務省は当たり前障りのない回答しかしない。事態は全く進展せず、攻め方を変える事も考えている。理事の皆さんの真摯な討議をお願いしたい。

○「さよなら原発のとりくみ」で、全国的に責任を果たしたのかどうかを総括したい。県内の運動に大きく貢献した・しなみ等については、対策委員会等で議論した方がいいのではないか、

○「原発対策委員会」が途中で開催できなかったことは問題ではないか。

○「さよなら原発4. 1県民集会」で、3400人の成功に平和委員会は大きな役割を果たした。千葉県では、福島の9・30集会に参加した「千葉労連」「千葉土建半」の半数が4. 1集会に参加した。柏市や松戸市からも参加した。他団体の動きも見えないと、平和委員会としての役割を果たしたかどうかはつきりしないと思う。

○「3400人が参加したことをどう評価するのか」でいいと思う。 「何人集まったからどうだこうだ」でなく、3400人の参加が、茨城の運動にはよかったと思う。取手では実行委員会を結成して、3台のバスで140人が参加した。実質2ヶ月間の短期間の中で、このような参加人数を集めたことは「取り組んでよかった」と思っている。そういう視点で3400人の参加を評価しないと、評価を誤るのではないかと思う。

○4. 1集会の評価は「よかった」でいいと思う。ただ「評価」と同時に反省点も出す。その中から教訓を引き出せると思う。それが新しい方針にどう広がるのかが大切だ。

○平和行進の参加者数は少しずつ減少している。地域で実行委員会が立ち上がりはつきりしない。地域の実行委員会をぜひとも立ち上げてほしい。「東海第二原発」廃炉の取り組みが盛り上がっているのも、市民へのアピールにはやりやすい。「九条の会」や「農民連」、「医労連」の常勤者などに呼び掛け、実行委員会を結成し、九条の会にも呼び掛け、参加者を増やすことができる。他の地域ではどのようにしているか聞きたい。

○毎年実行委員会を組織し、新婦人の会や市民と一緒にとりくんでいる。今年度は7月7日が行進なので、責任を持って取り組むと同時に、地域の人たちにも呼びかけたい。

○県内の平和行進の実行委員会の現状は、ブロックとしては、県北、水郡、水戸、県西、南部、鹿行等で結成されている。コースごとの実行委員会なども開催する地域もある。できるだけ実行委員会を組織し、地域の多くの団体や個人が集結して進めていってほしい。行進にあたって、沿道の人たちへの呼び掛けられるような対応を考えてほしい。

○議案のどの項目をとっても情勢的に重要なので、議案にすべての項目を並べるのは仕方がないと思う。ただ、12年度の活動方針なので、県平和委員会は「何を重点としていくのか」がはつきりさせた方がいい。取り上げる項目については、全体の中で強調のアクセントをつけるべきだ。1つには東海第二原発で、引き続き緊迫したとりくみが継続する。

県内の緊急課題は、「東海第二原発の再稼働を許さないとりくみ」と位置づける。県外では、沖繩の米軍基地だ。沖繩の県民からすれば、(米軍基地が残っている状態が継続しているなら)なぜ本土復帰したのかが分からない。沖繩は差別されている。基地問題の全てを背負わされている。本土側の運動が問題だ。本土と沖繩の問題は一体であり、要求を原点に返って「安保条約と沖繩」を全国の課題として1つの柱を立てる必要がある。そのような位置付で、沖繩問題は安保条約

をなくす大きな運動のスタートとなるのではないか。すぐに解決しないが、沖繩と安保とを結合したとりくみとして位置づけることが必要だ。本土の問題として日米安保と結合させることを強調すべきだ。



2012年度

茨城県平和委員会大会

とき：6月17日(日) 受付開始:午前9時30分

開会：10時 閉会：午後4時

ところ：茨城県立青少年会館 (県立歴史館まえ)

電話 029-226-1388

- ① 大会招集状は、5/16に各平和の会・平和委員会に送付しました。
- ② 大会代議員を決めて下さい。但し、代表理事・事務局長・常任理事はなれません。理事及び会計監査は可
- ③ 代議員数は下記の基準で選任して下さい。

【会員数】	【代議員】
1～9名	1名
10～29名	2名
30～49名	3名
50名以上	4名



平和かわら版 No. 626 (6月5日号) 別刷り

○県の課題と全国の課題とをメリハリをつけることが重要だ。

○情勢を含め10数ページを費やしているがすっきりしない。同じようなことが何度も出ている。全体をすっきりした形で構成することが必要だ。

○議案は大きく「情勢」と「具体的な取り組み」に分けてある。沖縄問題は憲法と安保条約との矛盾の集中として現れていることを抑えることが重要だ。どのように整理するのかについては、事務局に任せてほしい。

○平和と暮らしを守るわれわれの運動は、憲法施行65年、安保条約60年、沖縄復帰40年の節目のときにあたる。その中でどういうたたかいかをしていくのかを書けばいい。1つは安保条約と日本国憲法だ。安保と自衛隊、米軍との「動的防衛協力」という、地球規模で日米同盟で共同訓練で、グアムやデニアンに基地を作り、日本は金も出す。自衛隊も一緒にアメリカの侵略戦争を進める。地球的共同というと、集団的自衛権を行使していくということの重大さ、日米安保と憲法が矛盾の極地になっていることだ。

○沖縄では「安保条約の廃棄」が70%になっていることも書く必要がある。沖縄県民は引き返せないところになっている。一方本土では「安保条約は必要」が圧倒的多数になっている。アジアの多くのところと安全保障を結んだほうがいい。平和委員会は安保をなくすことをめざしているが、このことが結びつくと思う。

○海外派兵の問題だが、議案では「憲法の規制があるので、憲法を改正して海外派兵を進めよう」という。しかし、ソマリアには軍事基地を作っている。ソマリアでは兵器も使っている。その部分はリアルに表現しておく必要がある。悠長すぎる表現ではだめだ。

○ソマリアには、治安というか、海賊の横行をとめるために出ている。治安対策で海賊をおさえるための自衛隊を使う。「治安対策」といつても攻撃される可能性もあり、それに対抗すると「武力の行使」になる。それをどのように見るのが難しい。

○海賊と対峙中に攻撃され、それに対応して攻撃すれば「緊急避難」ということなる。

○「平和を守る」という件で、去年は中学校教科書の採択の年だった。平和委員会でも方針を出した。教科書は3年ごとに採択する。採択が終了すると同時に、次に採択の準備がはじまる。憲法の精神にたった教育基本法が改善され、「改善された教育基本法に従った教科書をつくれ」ということになった。学校を通じて「戦争賛成」の子どもを作られる。今回の採択で一定程度採択が増えた戦争賛美の教科書を作成した人たちが盛り上がっている。売り込みも進めている。それを押さえ、乗り越える取り組みが必要だ。どの項目に入れていいかはわからないが、大阪の教育基本条例なども考えると、教科書検定が続く限り、教科書採択のたたかいは続く。取り組みを投げないでほしい。教科書採択のたたかいは終わったのではない。もう少し丁寧に提起してほしい。

○平和憲法を考えると生臭い雰囲気がある。平和憲法の「条文を中心に協議」に入るといってもないことになっている。意見を統一して取り組みを進める必要がある。

○脱原発市長会議が発足し、運動を進めている。脱原発市長会議を広げていくこと、それを私たちがどう生かしていくことを考える。公共施設を使ってパネル展をする時に「ノー」はなかった。北茨城市では、8月の夏祭りに何万人も集まる。祭りのテントを借りて展示をしようと考えている。平和展を実施することを申し込んで、断られたらどうしようかと考えている。他の地域ではどうか経験を聞かせてほしい。

○東海村では一昨年から市の祭りにテントを借り、新婦人と協力して平和展を開催している。実際はテントの場所を人通りの少ない場所に追いやられている事実はあるが、照明は使えるし、テントも2張りも借りている。平和展の参加費は無料になる。しかし、実施主体の我々側は、ロートル化しているのは、どうかしなくてはならないと思っている。

○平和展などを企画するのために、県平和委員会として、平



和に関するビデオなどの所持について教えてほしい。「JCO事故の3日間の記録」を地域の平和展で、改めて取り組んでみようと考えている。新婦人の会に借りて「の海は忘れない」なども考えている。沖縄の基地問題などもみんなに知らせたい。再度、見てみたい。リストを流してほしい。(回答) 事務局でもできるだけ早く対応したい)

○日立の郷土資料館などで借りてもいいと思う。自治体も所持している。駅の通りでパネル展をやっている。「取手市で所持しているパネルを貸し出して暮れ」と言う「貸せない」といわれた。それが取手市のスタンスだ。

○「原爆と人間」パネルを自費で購入した。県では「非核宣言」をしているが、まだ宣言をしていない市町村もある。全市町村で宣言を出させるため、みんなを取り組んでほしい。原爆の問題では、「核兵器の核と原発の核は同じ」という視点で、住民に対する訴えを進める運動しないとだめだ。私は小美玉市長に対し、「6号国道に(非核都市宣言の)看板がでない」と話した。市長は「8月までに実施する」と言ってきた。

「無言館」の話をきいて 戦争と平和を考えるついでに

6月9日(土) 13:30~15:00

堀原市民センター

※水戸西平和の会では、総会の日、無言館(戦没面学生の遺作展示館)を見学してきた須田美智子さんの話をきいて「戦争と平和」について、みんなが語り合う集いを開きます。どなたでも参加して憲法・沖縄・原発問題などのご意見もどうぞ。

水戸西平和の会

平和かわら版 No. 626 (6月5日号) 別刷り

(2/4ページ)